

Long-term outcomes of androgen deprivation therapy in prostate cancer among Japanese men over 80 years old

ブラス, レアンドロ

<https://hdl.handle.net/2324/7363692>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : © 2021 The Authors. Cancer Science published by John Wiley & Sons Australia, Ltd on behalf of Japanese Cancer Association.



氏 名： ブラス レアンドロ

論文名： Long-term outcomes of androgen deprivation therapy in prostate cancer among Japanese men over 80 years old

(80歳以上の日本人男性における前立腺癌に対するアンドロゲン除去療法の長期成績)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は、一次アンドロゲン除去療法（ADT）を受けた80歳以上の男性の生存率を解析し、死亡の競合リスクを考慮した場合の前立腺がんによる死亡リスクを検討することである。ADTを受けた前立腺がん患者のデータを、日本前立腺がん研究グループにより構築された全国的な地域ベースのデータベースから抽出した。無増悪生存期間、がん特異的生存期間、全生存期間、および死亡率を含む予後変数を、前立腺がんリスクで層別化した男性間で比較した。全体として、80歳以上の4760人の患者が組み入れられた。超高齢男性における低リスク、中リスク、高リスク、または超高リスク、局所性、および転移性前立腺がんの割合は、それぞれ9.5%、14.6%、48.8%、9.0%、3.2%、および24.9%であった。生存率はリスク層別化が進むにつれて低下した。低リスク、中リスク、高リスク、または超高リスク、局所性、転移性前立腺がんにおける前立腺がんによる5-y累積死亡率は、0.92%（95%信頼区間[CI]：0.2%-3.6%）、1.6%（95%CI：0.8%-3.4%）、5.75%（95%CI：4.25%-7.75%）、15.6%（95%CI：11.6%-23.3%）、20.7%（95%CI：13.1%-31.7%）、および36.9%（95%CI：32.8%-41.4%）であった。今回の所見は、低リスク群および中リスク群では直ちにADTを行う必要はないことを支持するものである。逆に、高リスクまたは超高リスク、局所性、転移性前立腺がんでは、根治療法へのさらなる努力と、選択された。